

都心部の鉄道駅におけるホームドアの 設置必要度に関する研究

氏名 中西凌太郎

駅ホームにおける利用者の安全性確保は、全ての利用者に安心して利用してもらううえで必要不可欠である。ホームからの転落・接触事故は死亡事故といった重大事故の発生につながるだけでなく、その事故による列車の運転見合わせや遅延にもつながり、様々な悪影響をもたらしている。

本研究では、東日本旅客鉄道株式会社が鉄道駅バリアフリーに関する整備計画にて、今後のホームドア整備の計画が公表されている東京都内の 103 駅の中で優先してホームドアを設置すべき駅はどこかを考察した。

はじめに、103 駅の各駅の「乗降客数」を調査し、乗降客数 10 万人以上駅、乗降客数 10 万人未満駅の 2 つに分け、10 万人以上駅のランク付けを行った。次に乗降客数 10 万人未満駅で「島式ホーム」「通過駅」「乗換駅」の条件を満たしている駅を調査し、条件をより多く満たしている駅からランク付けを行った。

調査の結果、10 万人以上駅で最も優先してホームドアを整備すべき駅は「新宿駅」、10 万人未満駅で最も優先してホームドアを整備すべき駅は「新木場駅」であることが明らかになった。

今回、調査を行った東日本旅客鉄道株式会社内の 103 駅に該当しなかった駅のほか、東京都は私営鉄道や東京メトロといった他路線内での未整備駅も存在している。利用客が安心して利用できるように、優先してホームドアを整備すべき駅の別の条件の選定や今回調査を行わなかった駅でも優先整備の視点を満たしている駅はどこなのか、ホームドアを優先的に整備すべき駅はどこであるかを調査することが必要になってくるだろう。